

伊勢崎市指定史跡

お富士山古墳

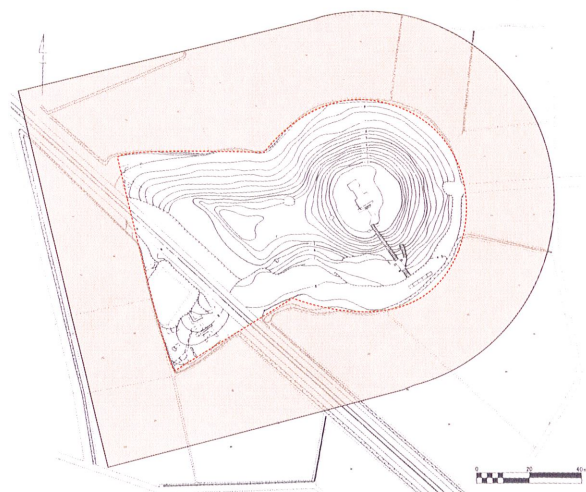
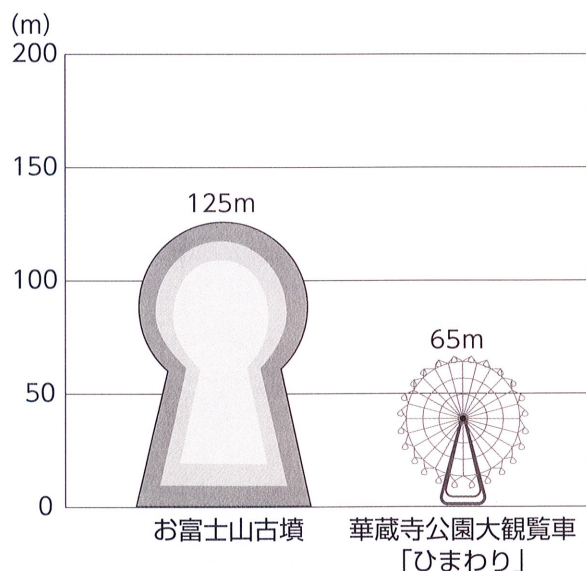
指定年月日: 昭和41年4月21日 所在地: 伊勢崎市安堀町

お問い合わせ

伊勢崎市教育委員会 文化財保護課
〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2
電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673
E-mail: bunkazai@city.isesaki.lg.jp

お富士山古墳は、市内で最も大きな前方後円墳です。墳丘の全長は125mあり、県内で8番目の大きさになります。墳丘のまわりには幅の広い周溝が掘られていました。周溝を含めた長さは192mです。

お富士山古墳の特徴は、古墳を横から見ると3段に築かれています。それぞれの段の斜面には河原石を並べて葺石を設置しています。前方部は、南西を向き後円部とほぼ同じ幅ですが、高さは低く造られています。段のまわりや前方部、後円部の頂上には円筒埴輪や朝顔形埴輪が立てられていました。また滑石で作られた刀子や斧の模造品なども出土しています。これらの遺物の特徴から、お富士山古墳は5世紀前半に築かれた古墳と考えられます。



お富士山古墳実測図(『群馬県史』資料編3による)



緑色の枠内が遺跡の範囲



お富士山古墳

群馬県指定重要文化財

お富士山古墳所在長持形石棺

指定年月日:平成13年3月23日 所在地:伊勢崎市安堀町

この長持形石棺は、お富士山古墳の後円部にあり、江戸時代に伊勢崎藩の関重^{せきしげたか}疑^なが書いた『^{はつぶんれき}発墳^{ふん}暦^{れき}』や『伊勢崎風土記^{ふどき}』に記録されるなど、地元では古くから知られていました。

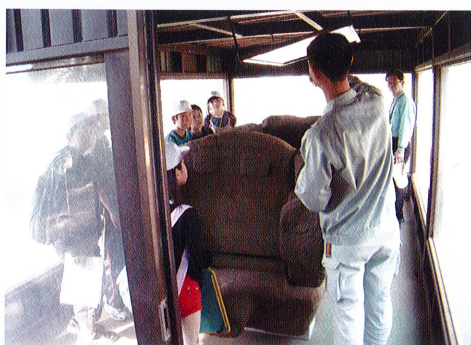
長持形石棺は、底石、側石、小口石で箱形をつくり、かまぼこ形や山形の^{ふた}蓋石と合わせて6枚で構成され、その形は衣服を入れた長持に似ています。

お富士山古墳の長持形石棺は、一部の蓋石がなくなっていますが、側石や小口、底石に組み合わせるための溝や段が彫られ、側石や底石の短辺に棒状の縄^{なわ}掛^かけ^{とつき}突起が作り出され、小口石の外面には小さな方形の突出も見られます。その大きさは全長285cm、幅121cm、高さ115cm、重さは約6.8トンもあります。このような特徴から、この石棺の製作年代は5世紀代と考えられます。

長持形石棺は全国で50例程度確認されています。その多くは畿内のヤマト王権を代表する大王の古墳などに用いられました。関東地方ではお富士山古墳と太田市天神山古墳のほか、千葉県で2例知られているだけです。

こうしたことから、お富士山古墳は、ヤマト王権と強い政治的なつながりをもったこの地域を治めた首長のお墓と考えられます。

平成14年度には石棺の保存処理を行い、保護のため覆い屋を設置して現地で公開しています。



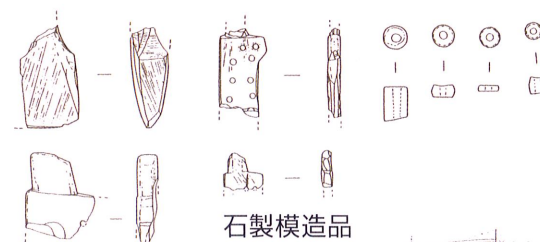
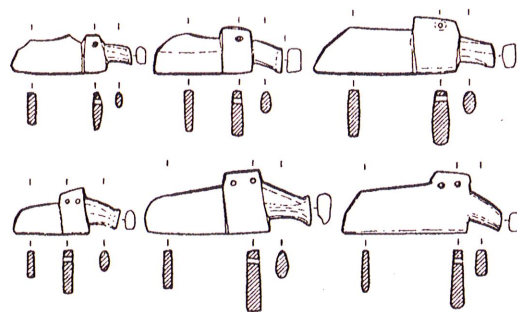
石棺公開の様子



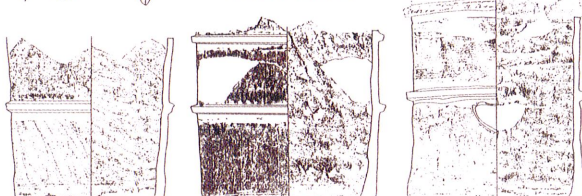
お富士山古墳 長持形石棺



石製模造品と円筒埴輪



石製模造品



円筒埴輪